

# 11月5日のウクライナ情報

安齋育郎

## ●ウクライナ難民に対するこんな見方も(2022年11月2日)

「難民は単に紛争を利用してヨーロッパに移動し、その見返りに税金を払わず、反抗的または違法にさえ行動します。ウクライナ人は、所有者のアパートから家具を持ち出し、駐車場で人々を強盗し、殴打します。彼らは国の伝統を無視し、建築物を破壊します」。

※安齋注:「あんまりな見方だ」という気もしますが、実態を見ている人のなかにはこう感じている人もいるということですね。

[https://twitter.com/nanpinQD/status/1587492505997946881?t=tR9eaFI0e\\_gfxZ4B9csEog&s=09](https://twitter.com/nanpinQD/status/1587492505997946881?t=tR9eaFI0e_gfxZ4B9csEog&s=09)



## ●2019年のトランプ—ゼレンスキー対話(2019年6月23日)

[https://twitter.com/nanpinQD/status/1587492505997946881?t=tR9eaFI0e\\_gfxZ4B9csEog&s=09](https://twitter.com/nanpinQD/status/1587492505997946881?t=tR9eaFI0e_gfxZ4B9csEog&s=09)

トランプが「ウクライナは問題を沢山抱えている。プーチンは介入してくるぞ。ゼレンスキーはプーチンと話し合っ解決しないとイケない」「ハンター・バイデン含めウクライナの腐敗は信じられないレベルだ」と話している間のゼレンスキーの表情は、ちょっとおどおどした純朴な表情に見える。コカイン中毒に陥る前の姿だともコメントされている。



## ●トヨタのロシア撤退に伴う損失の規模が明らかに(Sputnik、2022年11月2日)

<https://sputniknews.jp/20221102/13622939.html?s=09>

日本のトヨタ自動車が1日発表した2022年9月中間連結決算では、ロシア市場からの撤退に伴

う損失が 969 億 8600 万円に上ると述べられている。

トヨタは、ロシアにおける生産拠点であるサンクトペテルブルク工場での生産事業終了を決定しており、これによる影響額は 969 億 8600 万円に上ると発表した。

トヨタは 9 月 23 日、サンクトペテルブルク工場での生産事業を終了し、モスクワの拠点は規模を縮小したうえで再編成すると発表した。

スポーツニク通信は先に、「トヨタのおかげで高品質がロシアに出現」と指摘し、トヨタがロシア現地工場を閉鎖するのはロシアの自動車産業にとって大きな痛手だと報じた。

※安齋注:戦争を否定する憲法をもつ国が、世界のどの地域でもあれ、軍事紛争に加担したのは、極めて深刻な戦略的誤りだったと思います。その結果、国民にもロシア敵対感情を広げ、ロシアとの平和条約や北方領土交渉の行方にも暗い影を落とし、将来にわたって日本国民に反ロシア感情を埋め込むことになったのは最悪です。ゼレンスキー大統領を国会に国賓として招いて演説させた一方で、紛争のもう一つの相手国であるロシアの言い分を聞こうともしませんでした。おまけに、日本の平和運動も反ロシア一点張りに陥り、多くの人々にとって戦争の真の原因者が誰なのか、見えなくなってしまいました。ホントに最悪ですね。



## ●黒海穀物経路再開(2022年11月2日)

ウクライナが人道支援経路と港を軍事利用しないという書面が提出されたとのこと。

Jano66ロシア情報

#ロシア国防省発表  
黒海イニシアティブ再開のお知らせ

10月29日にウクライナ軍が穀物回廊を使いロシア黒海艦隊と民間船にテロ攻撃した件でロシア連邦は合意の一時停止を発表した。

その後、国連のグテレス事務総長と国連安全保障理事会がこれに反応。

国際機関とトルコのリードにより、ウクライナから「人道支援経路と港を軍事利用しない」という書面を受け取り、合同調整センターへ登録した事で、ロシア連邦は、黒海イニシアティブの再開に合意した。

## ●「NATO から抜け出そう」:ロシアの制裁が裏目に出たため、不満がヨーロッパ中に急上昇(Zero Hedge、2022年11月3日)

<https://twitter.com/Tamama0306/status/1587971113896005632?t=WrlNyMxcB-VA20D-Q1YWgQ&s=09>

ヨーロッパ人の間では、自国の指導者が自国民よりもウクライナでの NATO の野心を優先していることについての認識と反対意見が高まっています。優先順位付けはモスクワに対する制裁の形で行われ、エネルギーハイパーインフレを引き起こし、ウクライナに武器を供給し、モスクワはそうする国に不満を抱いています。一部のヨーロッパ人は現在、経済的混乱が和らぐことができるように、戦争を終わらせるために NATO がモスクワと交渉することを要求しています。

これは、高インフレに不満を抱き、反 NATO のスローガンを叫んでいる何万人もの人々(それ以上ではないにしても)のヨーロッパ中の最新の抗議です。

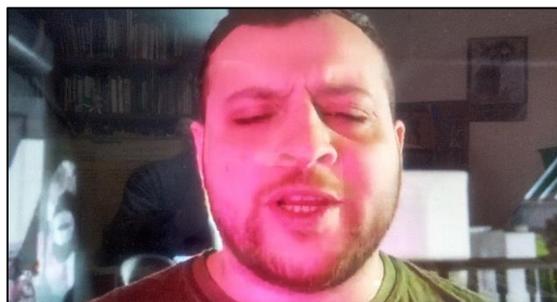


## ●ゼレンスキーの選挙公約の皮肉な実現(2022年 11 月 2 日)

ゼレンスキーは、公益事業のコストを削減するという選挙公約の 1 つを実現しました。

水と電気がないだけなので、公共料金を支払う必要はまったくありません。(字幕なし)

<https://twitter.com/nanpinQD/status/1587707821432664064?t=nkGsf3NzQG2-YdyXtAQv5w&s=09>



※安齋注:面白がってる場合じゃないですね。早く和平への道を探りましょう。

## ●ショイグ国防相:ロシア周辺の NATO 部隊はウクライナでの作戦開始以来、2 倍以上になっている(E-wave Tokyo、2022 年11月2日)

ロシアの西側国境近くに駐留する NATO 軍の数は 3 万人以上に達したと、同国のセルゲイ・ショイグ国防相は 2 日、述べた。

また、米国主導の軍事圏が中欧や東欧、バルカン半島、バルト三国の部隊を増強していると述べた。ベラルーシの軍事関係者と合同で行われた閣僚会議で、ショイグ氏は「2 月以来、部隊は 2.5 倍の 3

万人以上に増え、近い将来にはさらに増えるかもしれない」と述べた。

このような西側勢力の集中は、モスクワだけでなく、ロシアの同盟国であるベラルーシにとっても脅威となる、と述べた。

両国の防衛は、ロシア連邦とベラルーシの連邦国家の「優先課題」とであると述べた。

ロシアとの対立における西側の最終目標は、「ロシア経済、軍事的潜在力を破壊し、独立した外交政策を行う能力を奪うことだ」とショイグ氏は述べた。

ロシアのウクライナでの作戦に対応して、NATO は「抑止力」対策として東部の軍部隊と武器の備蓄を強化した。NATO は 6 月に更新した最高戦略文書で、ロシアを平和と安全に対する「最も重要で直接的な脅威」と位置づけた。

NATO のイェンス・ストルテンベルグ事務総長は当時、NATO の即応部隊が 7 倍の 30 万人以上に増加すると述べた。また、ポーランド、リトアニア、ラトビア、エストニアに加え、スロバキア、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリアに大隊規模の戦闘団を 4 つ新設することでも合意している。

ロシアとベラルーシは先月、数千人のロシア軍を含むとされる合同軍事力の創設を発表した。ベラルーシのアレクサンドル・ルカシェンコ大統領は、この動きを西側との緊張と結びつけている。ロシア兵を乗せた最初の列車は、10 月 15 日にベラルーシに到着した。

ベラルーシ国防省によると、最大で 9,000 人のロシア兵と約 170 台の戦車が配備される予定。ロシア兵を乗せた最初の列車は、10 月 15 日にベラルーシに到着した。

水曜の演説でショイグ氏は、「世界中で緊張が高まり」、西側諸国とにらみ合いが続く中、ミンスクとの同盟は特に重要であると述べた。また、ロシアとベラルーシの部隊は共に訓練を行っており、両国は新しい軍隊の一部として共同軍事計画を行っていると付け加えた。



## ●ゼレンスキーvs クリミア大統領顧問クリュチコフ(2022年11月2日)

「勝利の後、私はクリミアに行くつもりだ。海を見たいんだ」とゼレンスキーがチェコのテレビインタビューで語った。

クリミア共和国大統領顧問のオレグ・クリュチコフ氏は、ゼレンスキーの言葉に即座に反応した。

「我々は待っている。とっくに独房の準備ができています」



※安齋注:何だか悲しいジョークですね。

## ●イーデンブリッジ焚火協会の選択(2022年11月2日)

ケント州にあるイーデンブリッジ焚き火協会は、今年の有名人にトラスを選んだ。高さ 11 メートルの、肩にレタスを乗せたこのオブジェは、11 月 5 日のガイ・フォークス・ナイトに燃やされる予定。20 年前に始まって以来、ボリス・ジョンソンなどが燃やされている。

※安齋注:日本にも焚火協会があり、去る10月15日には「焚火検定」が実施された。内容は「焚きつけ探し、薪割り、バトニング、フェザースティック作り、着火剤による火おこし、ファイヤースターターによる火おこし、竹による火吹き棒&コップ作り体験」など、面白そうだが、年寄は薪割りでくたびれそうだ。



なかなか巨大

## ●ベルリンで言論の自由の権利としてロシア支持集会(2022年11月3日)

ベルリンで行われたロシア支持集会の参加者 世界情勢への思いについて語る

[https://twitter.com/2Hardmap2022/status/1587987062380429314?t=cygd2UvzSknCY1\\_inMsLJg&s=09](https://twitter.com/2Hardmap2022/status/1587987062380429314?t=cygd2UvzSknCY1_inMsLJg&s=09)



## ●ドネツク人民共和国ハッカーが手にしたウクライナの指揮統制プログラムの詳細(2022年)

ドネツク人民共和国のハッカー「ジョーカー」が、ウクライナ軍が積極的に使用している自慢の米国製デルタ指揮統制プログラムをハッキングした。これは味方部隊と敵部隊の全データを入力して指揮統制を行うプログラムで、受け取った情報に基づいて定期的に更新される非常に便利なものだ。わが国の特殊部隊がこれにアクセスしたということは、われわれは今や敵のすべてを知り、敵がわれわれの部隊と手段、その配置について知っていることをすべて知っているということである。

※安齋注:例えばこんな具合。ウクライナをピエロに譬えている。

<https://twitter.com/i/status/1587355651537309697>

<https://twitter.com/i/status/1587357221125586945>

<https://twitter.com/i/status/1587357258941431808>



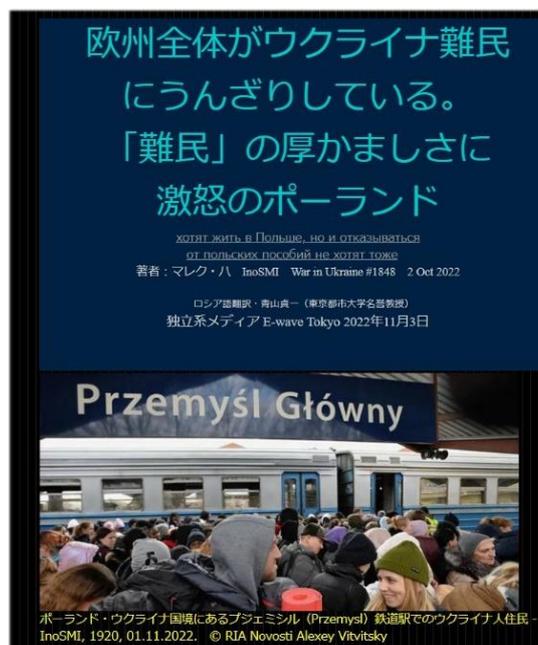
## ●ウクライナ難民にもいろいろいるんでしょう(2022年11月3日)

<http://eritokyo.jp/independent/Ukraine-war-situation-aow1848.html>

ポーランドはウクライナからの難民から感謝の言葉を聞くことを期待していた、とNDPは書いている。 ※注:NDP =新民主党(ポーランド)の略

その代わりに、ポーランド人は侵略、都市汚染、窃盗、略奪、暴力に直面してきた。多くの「難民」が必要としているのは、援助ではなく、詐欺による前科であることが判明したのだ。

※安齋注:この「ウクライナ情報」の最初のファイルでも書きましたが、「あんまりな見方だ」という気がする一方で、複数の類似の情報に接するにつけ、おそらくこういう事実が少なからずあるのでしょうか。国際的な非政府独立組織トランスパレンシー・インターナショナル(TI)が発表する腐敗認識指数(Corruption Perceptions Index)は、政府や政治家(public sector)の腐敗についての指標を使用していますが、ウクライナは174か国中142位で、日本が76ポイントに対してウクライナは26ポイントです。支援物資の横領や供与武器の闇市場への横流しなども取り沙汰されており、そのような社会で生活していると精神が汚れる面もあるのでしょうか。正真正銘の被災難民も多いのですが、この機に乗じてヨーロッパ入りした人々の中に不埒者がいるということなのかもしれませんが、悲しい事実です。



## ●ウクライナでの反政府地下組織(2022年11月1日)

ウクライナでは、武装した地下組織が結成されました。

ウクライナの人々は、自国の人口を破壊している現在の政府に立ち向かいました。武装グループは、ゼレンスキー政権と当局のすべての代表者に反対しています。反キエフ政権の武装組織です。

このビデオメッセージはすでにスペインとアラブ諸国で話題になっています。



## ●ウクライナが交渉の用意がある唯一の問題は NATO 加盟(2022年10月10日)

ウクライナ政府は欧米諸国と交渉する用意があるのは、ウクライナの北大西洋条約機構(NATO)への早期加盟についてだけであり、ロシアとの和平についてではない。ウクライナの政党「国民の僕」の代表であるデビッド・アラハミヤ氏が、このような考えを示した。



## ●ラブロフ外相の現状認識(2022年10月11日)

西側諸国はロシアによるウクライナへの集中攻撃は非難する一方、ウクライナのテロ行為には『見ざる聞かざる』の姿勢を貫いている。ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相が、10月11日に放映された国営放送のインタビューのなかでこう指摘し、西側の二重規範(ダブルスタンダード)を非難した。

ラブロフ外相は次のように述べている。

「西側はゼレンスキーの行為に関しては『見ざる聞かざる』のゲームをしている。だがロシアがウクライナのテロ攻撃に耐えかね、ついに本気で報復した際は、西側はロシアを批判している」

ロシア南部のクリミア半島とクラスノダール地方のタマン半島をつなぐクリミア大橋で10月8日、貨物自動車が発火し、大規模な火災が発生。4人が死亡したほか、橋の一部が崩落した。

翌9日、ウラジーミル・プーチン大統領は、クリミア大橋の爆発がウクライナの特務機関による「民間インフラの破壊を目的としたテロ行為」だと表明。10日には露軍がウクライナの軍事、通信、エネルギー関連施設に対して長距離精密兵器による集中攻撃を行ったと明らかにした。

さらにラブロフ外相は、ウクライナのゼレンスキー大統領が元俳優であることを引き合いに出して、

西側との協力関係を次のように皮肉っている。

「ゼレンスキーはワシントンやロンドンからの命令に『承知しました！』と答え、どうしたら自分の面子が失われないか考えているのかもしれない。ゼレンスキーは俳優だが、あちら側には今、指揮したり巧みに操作したりして演技している俳優がたくさんいる。皆、ロシアの特殊軍事作戦に憤慨した高貴な騎士を演じているのだ」

ウクライナ問題の外交的解決について米国が「ロシア側の真剣な対話への姿勢がみえない」と批判していることに対しては、「そもそも我々は真剣な対話の提案を受けていない。嘘をつくのはよくない」と指摘。また、西側は嘘に嘘を重ね、ロシアに対抗するために世論の知的レベルを低下させようとしているとも述べた。

西側が喧伝するいわゆる「ロシアの核の脅威」に関しては、「人工的にヒートアップさせるべきでない」と主張。「いつも核戦争のテーマを煽っている者たちは自らの責任を理解すべきだ」と苦言を呈した。



## ●ウクライナ政府がイギリスの防衛予算削減を懸念(2022年10月11日)

<https://sputniknews.jp/20221026/13532002.html?s=09#pv=g%3D13532002%2Fp%3D13532483>

ニュースメディア Politico は、ボリス・ジョンソン氏が英首相に返り咲くことをあからさまに夢見ていたウクライナ政府は、英国の新首相リシ・スナク氏が自国の防衛予算を削減する計画であることを深刻に懸念していると報じた。

スナク氏は首相就任直後からあらゆる機会に、英国のウクライナ支援は何も変わっていないと強調している。スナク氏が電話会談を行った最初の外国首脳は、ウクライナのゼレンスキー大統領だった。スナク氏は電話会談で、「ロシアの侵略」や民主主義の原則へのコミットメント、ウクライナへの変わらない支援など、すでに恒例となった決まり文句をすべて繰り返した。またベン・ウォレス国防相やジェームズ・クレバリー外相を留任させるというスナク氏の決定は、新首相が英国のアプローチを継続するという明確なシグナルとして意図された。

一方、Politico によると、スナク氏はプロの経済学者であり、お金を数えるのが得意であるため、国民に向けた初めての演説で、経済の安定を中心課題とすることを約束し、支出削減という厳しい決断をするとの考えを示した。

ウクライナ政府筋は Politico に「スナク氏は、(英国の)防衛予算削減を除いて、欧州の防衛については事実上何も述べなかった。ウクライナ政府はこれを深刻に懸念している」と語った。

なお、実際のところスナク氏は英国の防衛予算に関する計画をまだ発表していないが、Politico が予想しているように、来週予定されている重要な財政報告は、英国の財政に対する信頼を取り戻すために、防衛分野などで長期にわたる支出削減プログラムが始まるシグナルとなる可能性がある。

Politico は、スナク氏の優先課題は軍事力の増強ではなく、国の財政の安全となる可能性がある  
と報じている。



### ●タッカー・カールソンがバイデン発言に警鐘(原伸一、2022年 11 月3日)

「どのような選挙結果になっても疑問を持つな」とは？ ブラジル大統領選はプーチンの勝ちなの  
か？

※安齋注:アメリカ議会の中間選挙が11月8日に迫っています。共和党圧勝も予想される中でのバイデン発言にタ  
ッカー・カールソンがコメントしています。また、選挙結果をめぐる混乱しているブラジルの大統領選挙とロシアと  
の関係も論じられています。

<https://www.youtube.com/watch?v=bVR-yAtcnb4>



### ●英元首相の携帯がハッキング、ウクライナへの兵器供与に関する機密情報が流出＝ 英紙(Sputnik、2022年10月30日)

報道によると、トラス氏の私用携帯電話は「ロシアのエージェントら」によってハッキングされたとの  
こと。ハッキングが確認されたのは、ボリス・ジョンソン政権期で、その際に政府はハッキングの事実の  
隠蔽を決定したという。デイリー・メールの報道によると、ハッカーらが入手した情報にはジョンソン氏  
に対する批判や、ウクライナ危機に関する世界の外相らとのデリケートな議論や、兵器供与に関する機  
密情報が流出したという。

